

台所用自動水栓取付説明書

仕様

1. 各部の名称

TEK41・TEK42・TEK43 (AC100V用)

吐水切替ハンドル
吐水口スイッチ
センサー (TEK41, TEK42の場合)
流量調節ハンドル
自動運転スイッチ
逆止弁
フットスイッチ (TEK41, TEK43の場合)
ACアダプタ
手動開閉ハンドル (背面)
温度調節ハンドル

TEK41D・TEK42D・TEK43D・TEK41DL (乾電池用)

吐水切替ハンドル
吐水口スイッチ
センサー (TEK41D, TEK41DL, TEK42D)
自動運転スイッチ
フットスイッチ (TEK41D, TEK41DL, TEK43Dの場合)
手動開閉ハンドル (背面)
温度調節ハンドル

付属部品	数
開閉工具	1
泡まつキャップ	1

2. バリエーション

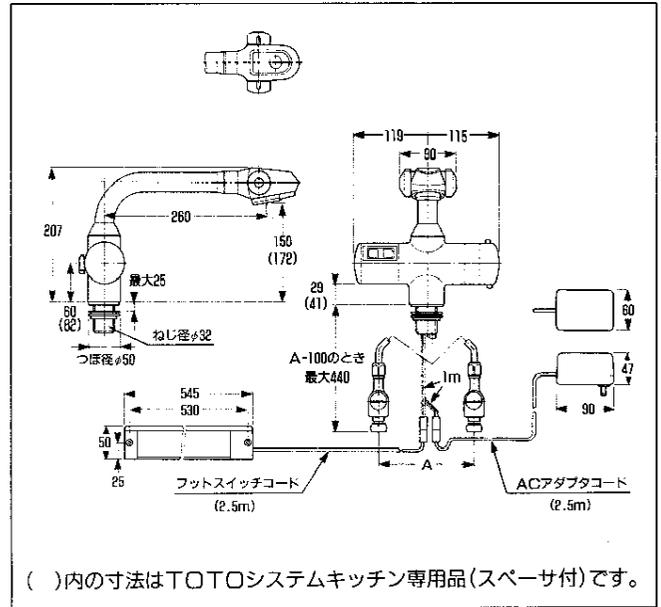
電源	タイプ 表面処理	自動センサー 吐水口スイッチ フットスイッチ	自動センサー 吐水口スイッチ	吐水口スイッチ フットスイッチ
AC100V	ニッケルクロム	TEK41	TEK42	TEK43
	パールホワイト	TEK41#N11M	TEK42#N11M	TEK43#N11M
乾電池	ニッケルクロム	TEK41D (TEK41DL)	TEK42D	TEK43D
	パールホワイト	TEK41D#N11M (TEK41DL#N11M)	TEK42D#N11M	TEK43D#N11M

- 品番ラベルは水栓の側面に貼付けてありますので、ご確認ください。
- 台所用自動水栓は寒冷地用はありません。
- ()内の品番はTOTOSシステムキッチン専用品(スぺーサ付)です。

3. 仕様

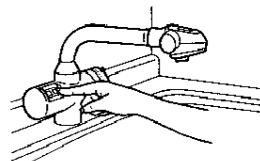
項目	仕様	
電源	AC100V	AC100V 50/60Hz(共通) 1W(作動時3W)
	乾電池	DC6V(カメラ用バック電池2CR5) 約200回吐・止水/日の使用で約2年
給水・給湯圧力	最低必要水圧 0.5kgf/cm ² 最高水圧 6.0kgf/cm ²	
使用水	上水	
周囲使用温度範囲	0~55℃(水温は1~80℃)	
周囲使用湿度範囲	90%R・H以下	
感知距離	190±15mm(白紙150mm角)	
コード長さ	AC100V	水栓側1m, フットスイッチ側2.5m, ACアダプタ側2.5m
	乾電池	水栓側1m, フットスイッチ側2.5m
吐水流量調節	流量調節ハンドルで調節	
吐水切替	切替ハンドルで切替え	
供給湯温	吐水希望温度+10℃	
吐水温度調節	吐水温度調節ハンドルで調節 水温~約70℃(供給湯温75℃の場合)	
給水・給湯接続	G(PF)1/2	

4. 外形寸法図



作動のしくみ

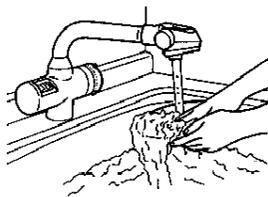
1. 自動吐水 (自動センサータイプの場合)



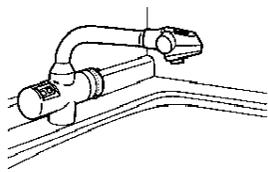
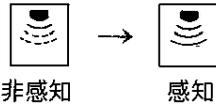
自動運転スイッチを「入」にします。

液晶表示





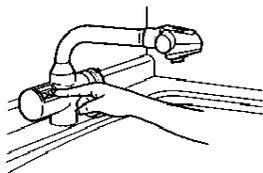
吐水口に食器や手を近づけるとセンサーが感知し、吐水します。



吐水口から離すと止水します。



(約1分間連続吐水を行うと自動的に止水します。さらに吐水させる場合は一度吐水から離し再度近づけてください。)



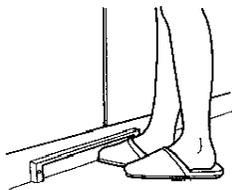
使用后、自動運転スイッチを「切」にします。



(切り忘れた場合でも、最後に止水させて、約15分経過すると自動的に「切」になります。)

2. スイッチ吐水

フットスイッチ(フットスイッチタイプの場合)

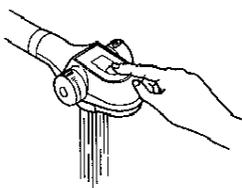


一度押すと吐水し、もう一度押すと止水します。

(切り忘れた場合でも、約10分経過すると自動的に止水します。)

フットスイッチで吐水させ、吐水口スイッチで止水することもできます。(逆もできます。)

吐水口スイッチ



使用条件

1. 使用水圧

(1)瞬間型給湯機と組み合わせる場合

給水圧力 { 最低必要水圧…(下記参照)
最高水圧……………6.0kgf/cm²
器具入口部における最低必要水圧(kgf/cm²)

給湯機タイプと号数		最低必要水圧	
従来タイプ	8号	A+2.0	
	10号	A+2.9	
	12号	A+4.0	
比例制御タイプ	TOTO カスタム制御方式	10号	1.0
		16号	0.9
		20号	0.8
	TOTO トリコン制御方式 (トリコン・コンタクト) アクティ	16号	0.8
		20号	
		24号	
		アクティ3I	
	TOTOコマンド	32号	0.7
		16号	0.9
		24号	

注) TOTOカスタムシリーズでは、給湯機の温度を60°Cにした場合、表中の数値より0.2kgf/cm²多く必要になります。表中のAは給湯機の最低作動水圧を示します。(比例制御タイプにはこの数値が含まれています)

(設定条件)

- 止水栓は全開 ● 給湯配管長さ：5m
- 給湯機温度調節は最高温に設定 ● 吐水温度：42°C

a) 従来タイプの場合

- 給湯機が着火する下限の圧力とする。
- 水温の高い(25°C)夏季に着火させることを想定。

b) 比例制御タイプの場合

- 水温の低い(5°C)冬季に約6ℓ/minの吐水流量を確保するのに必要な圧力とする。

(2)貯湯式温水器と組み合わせる場合

給水・給湯圧力 { 最低必要圧力…0.5kgf/cm²
最高圧力……………6.0kgf/cm²

1. 給水圧力は給湯圧力より必ず高くするか、同圧になるようにしてください。

給水圧力が6.0kgf/cm²を超える場合、市販の減圧弁で、2.0kgf/cm²程度に減圧してください。

2. 給湯温度は使用する温度より10°C以上高くしてください。

ただし、約70°C以上の温水は出ないようにしています。

3. 給湯に蒸気を使用しないでください。

4. 湯・水を逆配管しないでください。

なお、給湯機からの給湯管は抵抗を少なくするため最短距離で配管し、配管には必ず保温材を巻いてください。

取付け前に

1. 電気製品ですのでACアダプタやフットスイッチに水をかけないようにご注意ください。

また、浴室内では使用しないでください。

2. 電源はAC100V又はDC6V(二酸化マンガン・リチウム電池2CR5)です。

乾電池タイプの場合、付属の電池を使用してください。

3. 給水圧力範囲は、0.5~6.0kgf/cm²です。この圧力範囲でご使用ください。

4. 給水は上水道に接続してください。中水道及び異物を多く含む水には使用できません。
5. センサー面は傷つけないよう十分ご注意ください。
6. 取付に必要なスペースを器具の取付に記載していますので、ご確認ください。

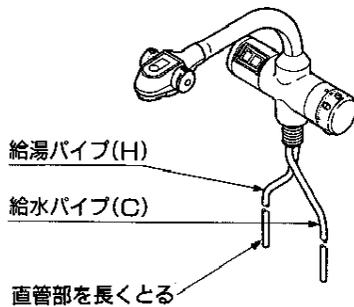
7. カラー品については、取付けにあたって、打傷やすり傷を付けないようご注意ください。またカラー部分に工具をかけるときは必ず柔らかい布をあて、直接工具をかけないでください。
8. 水道工事と電気工事は、十分工程を打合せの上、行ってください。

器具の取付け

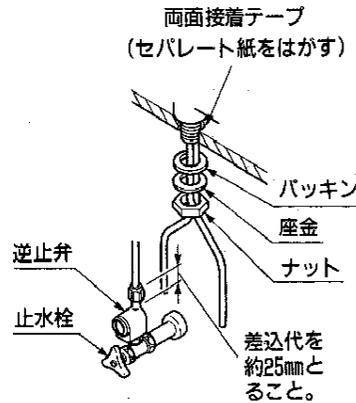
器具を取付ける前に必ず給水・給湯管内のごみ、砂などを完全に洗い流してください。

①キャビネットを新設し、内部にコンセントを設ける例

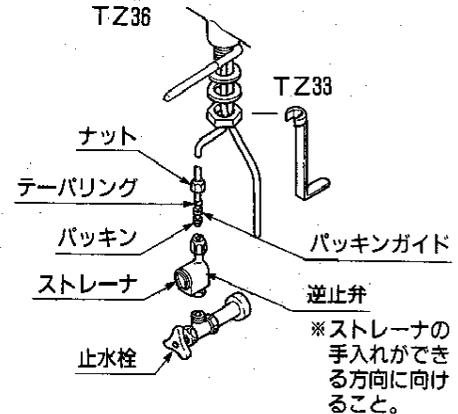
- (1) 混合栓本体が正面を向くように仮固定し、給水・給湯パイプを止水栓の取出し心に合うように曲げて広げてください。このとき、できるだけ直管部が長くなるようにしてください。また、給水・給湯パイプがつぶれないように注意してください。



- (2) 逆止弁を止水栓に仮固定した後、給水・給湯パイプの必要長さをあたり、切断してください。このとき、パイプの差込代は約25mm確保してください。

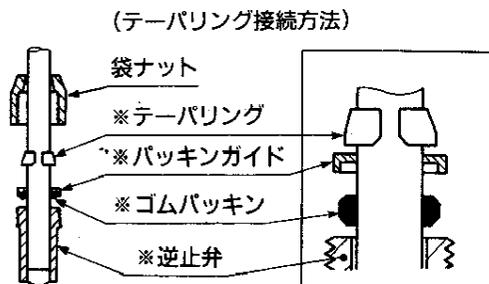


- (3) 給水・給湯パイプに袋ナット、テーパリング、バックシンガイド、ゴムバックシンの順に入れて、逆止弁を差込んでください。次に逆止弁を止水栓にねじ込み、混合栓本体を本固定してください。固定には別売のナット締付専用工具(T Z 33, T Z 36)を利用して確実に締めてください。



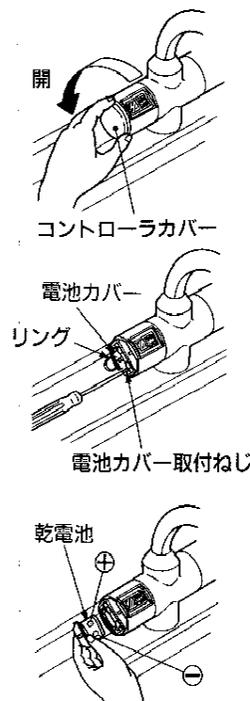
※混合栓本体を固定するときは、取付穴周囲の汚れをとり、セパレート紙をはがしてください。

- (4) 最後に給水・給湯パイプを逆止弁に押しつけ、手締後1回転以上締付けてください。
注) 給水・給湯パイプの抜け防止のため、給水・給湯配管は動かないよう確実に固定してください。



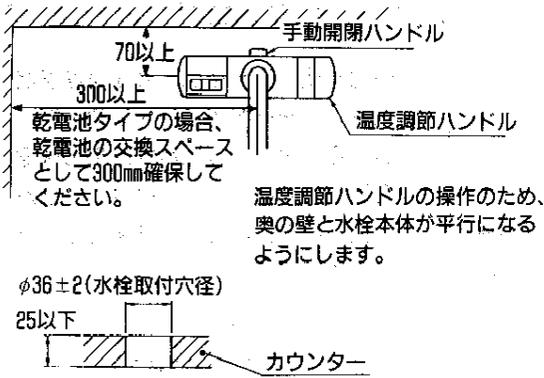
※テーパリング・バックシンガイド・バックシンの順番、向きをまちがえないでください。

(5) 乾電池のセット

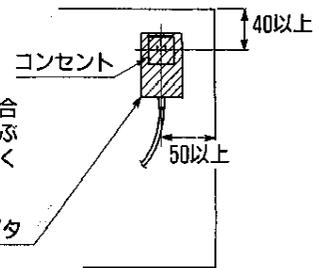


- コントローラカバーを奥側に回してはずします。
- 電池カバー取付ねじをはずします。
- リングをつかんで電池カバーを抜き出し、付属の乾電池を挿入します。(乾電池の方向に注意してください。)
- 電池カバーと乾電池を同時に差し込み、取付ねじで電池カバーを取付けます。(ケース内に水が入らないように注意してください。)
- コントローラカバーを取付けます。

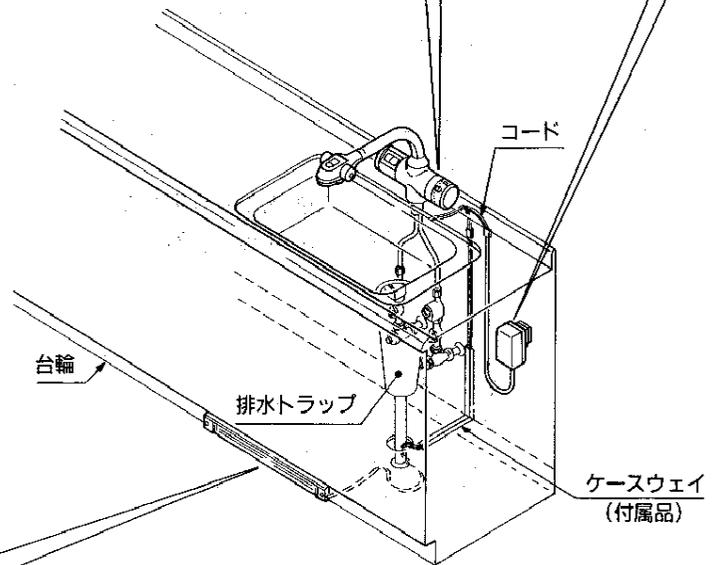
取付に必要なスペース



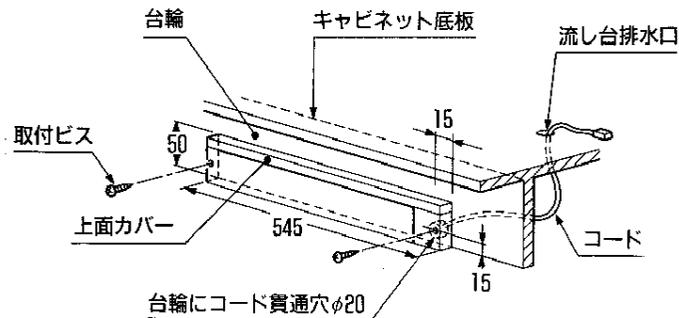
電気工事にコンセントを取付けてもらってください。
ACアダプタがコンセントより大きい場合がありますので、キャビネットの内壁にぶつからない位置にコンセントを取付けてください。



- 流し台キャビネットの台輪に、フットスイッチの位置を決めコード貫通孔位置をけがいたあとコード貫通孔(φ20)をあけてください。
- コードを貫通孔より通し、流し台の排水口から出しておいてください。
- フットスイッチを取付ビスで固定してください。
- 混合栓側のコネクタとACアダプタ側およびフットスイッチ側のコネクタを確実に接続してください。
- 配線の保護
付属のケースウェイと、コードフック(両面テープ付)を用いて、流し台キャビネット内に出ているコードを保護します。(完成図参照)
- ケースウェイは適当な長さに切ってご使用ください。



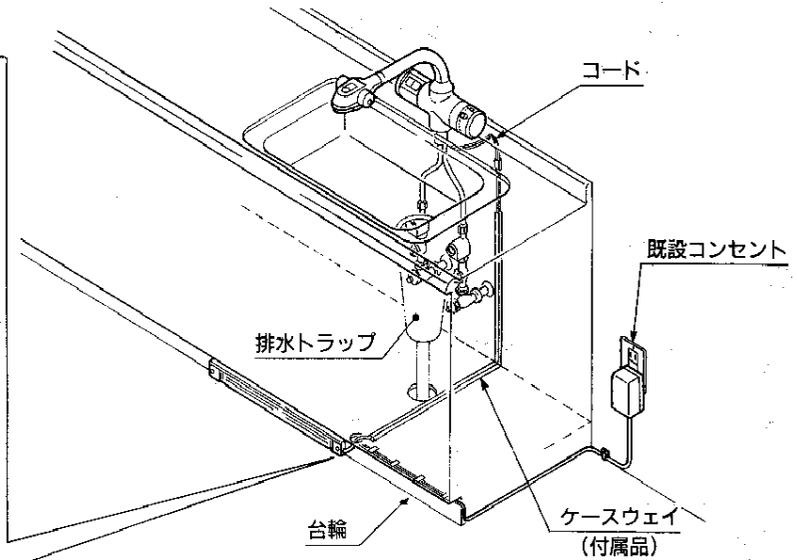
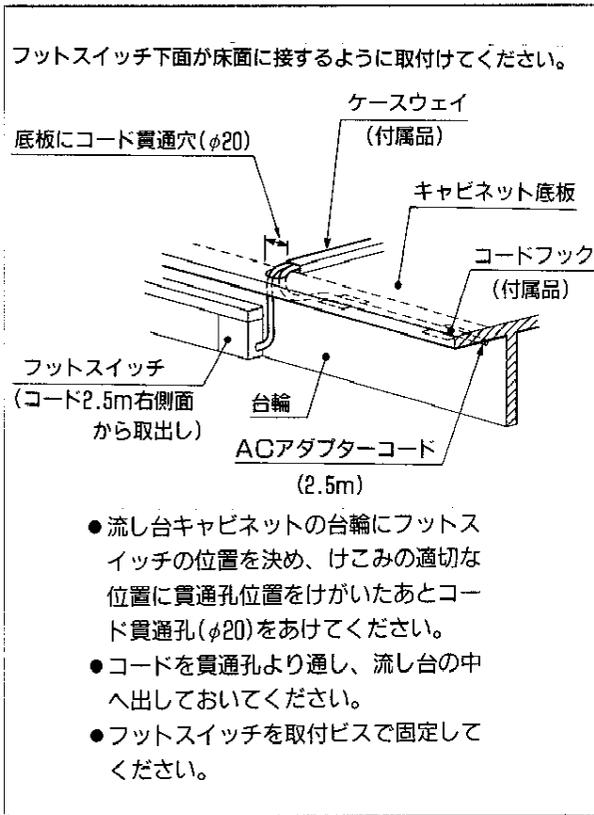
フットスイッチ下面が床面に接するように取付けてください。



台輪部の高さが50mmより低い時はフットスイッチの上面カバーをとりはずしてご使用ください。高さ43mmの台輪まで取付けできます。

②既設キャビネットへの取付け例

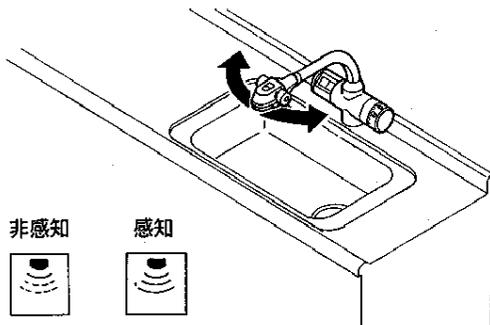
水栓本体及び、フットスイッチは①キャビネットを新設し、内部にコンセントを設ける例と同じです。
キャビネットの適切な位置にコード貫通穴をあけて、フットスイッチコードと ACアダプターコードを通してください。



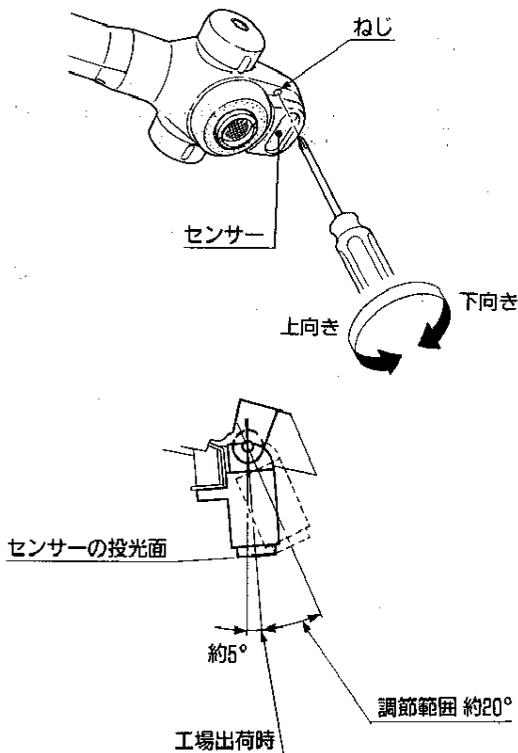
取付完了後の確認

取付けが完了した後、次の方法で確認を行ってください。

- 自動センサータイプの場合のセンサー照射角度の調節
自動運転スイッチを「入」にしてスパウトを回転した時(180°)、シンクの底面を感知したままにならないかどうか確認してください。

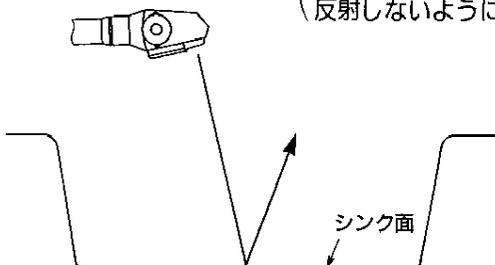


シンクの底面を感知する場合は、吐水口のねじを回してセンサーの照射角度を調節してください。



センサーの投光面がシンクの平面と平行にならないようにすることが調節のポイントです。

(センサーの投光がまっすぐに反射しないようにする。)

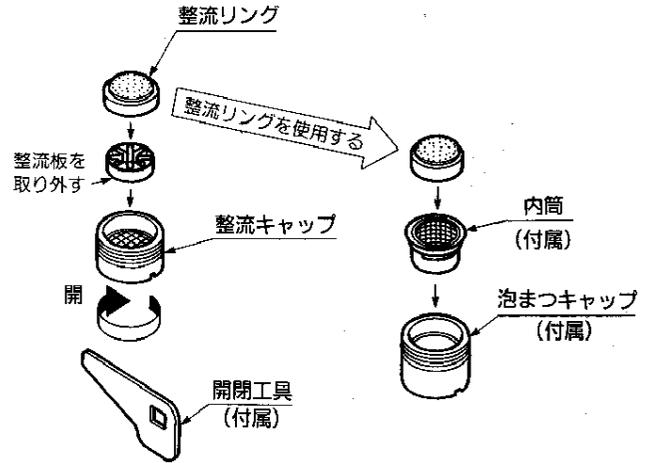


泡まつキャップへの取替

お客様のお好みにより、整流キャップを付属の泡まつキャップに取替えができます。

(この場合、給水・給湯圧力は1kgf/cm²以上が必要です。)

なお、出荷時のキャップに組込まれた整流リングを、泡まつキャップにも組み込んでご使用ください。



ストレーナの掃除

ストレーナが詰まると吐水量が少なくなったり、水又は熱湯しか出なくなるなど十分な機能が発揮されなくなります。

器具取付後は、必ずストレーナを掃除してください。

また、お客様にもときどき掃除していただくようにご指導願います。

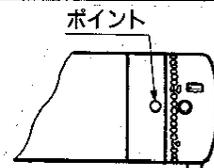
お手入れ

器具がいつまでも美しさを保つように、お客様にお手入れ方法をご指導ください。

- ふだんは柔らかい布でみがき、めっき品についてはときどきミシン油やカーワックスなどをしませた布でみがくこと。ただし樹脂部(ハンドルや各カバーなど)に付着すると光沢を失うので、付着しないよう十分注意すること。カラー品については汚れがひどいときは適量にうすめた中性洗剤でふいたあと、水ぶきし、最後からぶきしてください。
- クレンザーやみがき粉など粗い粒子を含む洗剤やナイロンたわしなどは使用しないこと。
- 酸性洗剤はめっきを侵しますので使用しないこと。もしタイルを酸性洗剤で洗った場合は、すぐにタイル及び器具を十分水洗いすること。

使用上のご注意

熱湯使用後は温度調節ハンドルを適温に



熱湯を使用した後は、必ず温度調節ハンドルを適温ポイントに戻して、しばらく水を出し混合栓内部の残湯を流しておいてください。(これは次に使うとき、いきなり熱湯を浴びないためです。)